

治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町
電 話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
ホームページ <http://zensuiren.org/>
お問い合わせ zensuiren@k2.dion.ne.jp
編集・発行 植崎晃久



表紙写真「保津川秋景色」 撮影者：岡本 暁典 一般社団法人建設広報協会 <http://cprahp.com/>

● 目 次

九州地方治水大会の開催について(ご案内)	2
近畿地方治水大会のご案内	4

九州地方治水大会の開催について（ご案内）

平成 27 年 11 月 5 日(木) 13:30 ~
鹿児島市 ホテルウエルビューかごしま
鹿児島県土木部河川課

平成 27 年度の九州地方治水大会の事務局を担当します鹿児島県から、九州地方治水大会のご案内をさせていただきます。関係各位の多数のご参加をお願いいたします。

鹿児島県のすがた

鹿児島県は、日本本土の西南部に位置し、その総面積は約 9,188 平方キロメートルで全国第 10 位、2,643 キロメートルの長い海岸線を持ち、太平洋と東シナ海に囲まれた南北約 600 キロメートルにわたる広大な県土を有しています。

日本で初めて世界自然遺産に登録された屋久島や、珊瑚礁や希少な野生動植物が見られる奄美の島々をはじめとする特色のある島々、桜島や霧島等の火山、緑あふれる森林、変化に富んだ長い海岸線など、多彩で豊かな自然環境に恵まれています。

地勢は、中央部を南北に霧島火山帯が縦断し、北部の霧島から南海のトカラ列島まで今年 5 月に爆発的噴火が発生した口永良部島など 11 の活火山が分布しており、豊富な温泉にも恵まれています。また、県下のほとんどの地域が火山噴出物であるシラス層によって厚く覆われています。



鹿児島市から見た桜島



ライトアップされた鹿児島市街地を流れる甲突川

河川の現況

本県は、離島も多数抱えていることから、県で管理する河川が、一級水系及び二級水系を合わせ 459 河川、総延長 2,490km に及びます。また、本県は台風常襲地帯に位置し、梅雨期に降雨が集中するなど、厳しい自然状況に加え、県土の大半がシラス等の特殊土壌に覆われています。

このような地形条件や自然状況などのため、県内各地で集中豪雨や台風による河川の氾濫や土砂災害等の被害が毎年のように発生しています。これまでも、平成 5 年 8 月の「8.6 水害」をはじめ、平成 12 年 6 月の南薩地域豪雨、平成 13 年 9 月の種子島豪雨、平成 17 年 9 月の台風 14 号、平成 18 年 7 月の県北部豪雨、平成 22,23 年の奄美豪雨などにより尊い命が奪われたほか、多くの家屋で浸水被害が発生しました。

これらの水害の発生等を契機に鋭意河川改修を進めているところですが、時間雨量 60mm を目安とした河川の整備率は約 46% と未だに低い状況です。

このような状況のもと、県としましては、中長期的な観点から本県のあるべき姿や進むべき方向性を示した「かごしま将来ビジョン」において「災害に強い県土づくり」を目指した河川整備に取り組むこととしており、特に、甚大な浸水被害を受けた箇所については、浸水被害の解消を図るため河川改修を積極的に進めるとともに、県内各地を流れる主要な河川についても、治水安全度の向上を図るため、計画的な河川改修に努めているところです。

近年の浸水被害と今後の取り組み

奄美大島においては、平成 22 年 10 月、平成 23 年 9 月、平成 24 年 9 月の相次ぐ集中豪雨により、多くの河川が氾濫し甚大な浸水被害が発生したため、住宅浸水被害の解消を目的に、大美川や住用川などの 7 河川において、床上浸水対策特別緊急事業及び防災・安全交付金事業により、河道拡幅や橋梁改築等の河川改修を進めています。

平成 18 年 7 月の県北部豪雨災害では、川内川及び米之津川において 3 千 6 百戸に及び甚大な住宅浸水被害が発生したことから、同規模洪水の再度災害防止を図るため、平成 18 年 10 月に河川激甚災害対策特別緊急事業に採択され、分水路や堤防整備、橋梁改築等の河川改修を進め、平成 24 年度に完了したところです。

なお、川内川については、激特事業完了後も、水系全体の治水安全度の向上が必要なことから、鶴田ダムの洪水調節機能の強化を図るため、調節容量の増量や放流設備の増設などが進められています。



平成 18 年県北部豪雨災害によるさつま町市街部の浸水被害



平成 22 年奄美豪雨災害による奄美市住用町の浸水被害

ハード対策による防災効果が発揮されるには費用と時間を要することから、市町村の防災活動や住民避難が円滑に行われるよう、河川情報の提供や市町村が行う洪水ハザードマップの作成支援等、ハードとソフトが一体となった総合的な防災・減災対策の推進に努めているところです。

なお、県内各地の雨量と主要河川の水位情報については、河川砂防情報システムによりインターネット等で広く県民へ提供するとともに、平成 22 年 7 月からは、NHK デジタル放送でも雨量及び水位情報の提供を行っています。また、河川砂防情報システムについては、今年 4 月に県内 11 箇所に設置した河川監視カメラによる静止画像の提供を開始するとともに、スマートフォン向けの専用画面を構築するなど、より

使いやすく改善したところです。

また、河川や道路などの公共施設は、高度経済成長期にその多くが整備され、今後、大量更新などによる事業費の増大が予想されています。このため、アセットマネジメントを導入し、効率的かつ効果的に施設の維持管理を進めていく必要があると考えています。本県が管理しているダム樋門、水門等の河川構造物についても、現在、施設点検や維持管理計画の策定を進めているところです。

寄洲除去については、洪水氾濫による浸水被害を未然に防止するため、毎年、緊急性の高い箇所から順次実施していましたが、平成 24 年 11 月に「鹿児島県寄洲除去計画」を策定し、河川内の埋塞状況や背後地の資産状況、過去の浸水実績等を参考に、治水上支障となっている寄洲の集中的な除去に取り組んでいます。

九州地方治水大会の開催

さて、開催地となります鹿児島県には、今年 7 月、世界文化遺産に登録が決定された「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である旧集成館や関吉の疎水溝など、日本近代化の礎となった近代化産業遺産が多く存在しています。

また、指宿・山川といった各地の温泉郷や霧島、屋久島、奄美群島などの豊かな自然、鹿児島黒牛、かごしま黒豚、きびなごの刺身、焼酎といった多様な食材など「本物」の素材があふれていますので、この機会に是非、ご堪能いただきたいと思います。

皆様のご参加を心からお待ちしております。



旧集成館機械工場



関吉の疎水溝

近畿地方治水大会のご案内

平成 27 年 11 月 9 日(月) 13:30 ~
 福井市 アオッサ 福井県民ホール
 事務局: 福井県土木部河川課内

平成 27 年度近畿地方治水大会の事務局を担当します福井県から、本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

福井県は、本州日本海側のほぼ中央に位置し、敦賀市と南越前町の間、木ノ芽峠を境として嶺北地方と嶺南地方に分かれます。

嶺北地方の隆起性の地形と嶺南地方の沈降性の地形は美しい自然を形成し、「越山若水」として親しまれており、海蝕断崖や奇石のみられる越前海岸および起伏に富んだリアス式海岸の若狭湾は、自然海岸の割合が高く、海岸線延長約 420km の大部分が国定公園に指定されています。

県内を流れる河川は、一級河川が 2 水系で 159 河川・延長 1099km、二級河川が 22 水系で 41 河川・延長 253km および準用河川が 19 水系で 70 河川・延長 135km です。

嶺北地方の大部分を占める九頭竜川水系は、県境近い山間部に源を發し、九頭竜川の中流に大野・勝山盆地を形成し、福井平野が展開する下流で日野川、足羽川を合せ日本海に注いでいます。若狭湾に面した嶺南地方は、東西に長い帯状の地形で、主な河川としては、敦賀湾に注ぐ笙の川、小浜湾に注ぐ北川、南川をあげることができますが、いずれも九頭竜川と比べると小規模です。

福井県の被害が大きかった近年の災害としては、平成 16 年 7 月の福井豪雨があげられます。深夜から明け方にかけて 1 時間に 80mm を超える猛烈な雨が降り、福井市中心部を流れる足羽川が破堤、鯖江市の河和田川、鞍谷川では堤防から越水し大きな被害がでました。この豪雨により、死者・行方不明者 5 名、

全・半壊約 190 棟、床上・床下浸水約 13,600 棟の被害がありました。

平成 25 年 9 月には、大型の台風 18 号により福井・京都・滋賀に運用開始以来、初めてとなる大雨特別警報が発表されました。県内では、嶺南地方を中心に激しい雨が降り、若狭町の野木川が破堤、6 市町の約 50,600 世帯 131,000 人に避難指示と勧告がなされました。



台風 18 号による野木川の破堤 (平成 25 年 9 月)

福井豪雨で被害を受けた足羽川では、河川激甚災害対策特別緊急事業が採択され、破堤部の復旧、河積を拡大させる河床掘削、堤防の強化、橋梁架替等の工事を実施し、平成 21 年 11 月に竣工しました。

足羽川の改修工事の実施にあたっては、治水面だけでなく、桜堤の保全、親水階段・船着場・ワンドなどの整備により、県都福井にふさわしい水辺空間を創出しました。県と福井市が共同で策定(平成 25 年 3 月)した、2050 年を見据えた県都のまちづくりの指針「県都デザイン戦略」において、美しく生まれ変わった足羽川を県都のシンボルとして位置付け、様々な利活用が行われています。今年の 8 月からは、江戸時代の足羽川の「繰舟」という舟の渡しを再現し、川に親しむ取組等を行っています。



福井豪雨による足羽川の破堤 (平成 16 年 7 月)



美しく生まれ変わった足羽川と線舟



河川改修後、新しくなった足羽川の桜堤

ダム事業については、国直轄の足羽川ダム、補助ダムの河内川ダム、吉野瀬川ダムに取り組んでいます。足羽川ダム事業では、昨年6月に付替え県道の着工式が開催され、一日も早い完成を目指し、国や池田町と協力して推進しています。また、河内川ダム事業では、本体工事や道路の付替え工事が進み、本年11月には定礎式が開催されます。吉野瀬川ダムについても道路の付替え工事を進めています。



河内川ダム工事状況（若狭町）



県立恐竜博物館（勝山市）

昨年から今年にかけて、嶺南地方を貫く舞鶴若狭自動車道の開通、北陸新幹線の金沢開業、中部縦貫道と北陸道の直結開通など、高速交通網の整備が大きく前進しました。今後、北陸新幹線については、敦賀市までの延伸が平成34年度末に、中部縦貫道については、大野市までの延伸が平成28年度内に予定されており、更に全線開通を目指し取り組んでいるところです。これらの高速交通網を利用し、県立恐竜博物館や三方五湖等の観光に利用していただきたいと考えています。また、本大会が開催される11月には越前ガニ漁が解禁されます。福井の海の幸、山の幸たくさんのお味の味覚を楽しんでいただきたいと思ひます。

最後になりますが、皆様のお越しを心よりお待ちしております。